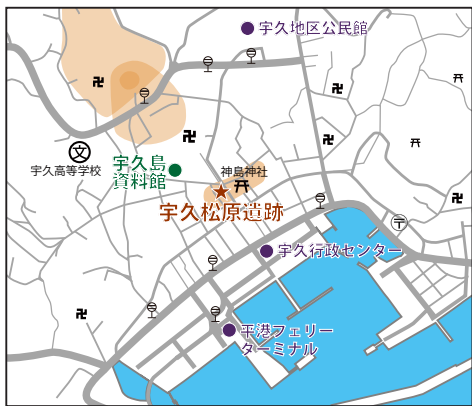




宇久松原遺跡は、五島列島の最北端である宇久町にあり、平港からほど近い神島神社周辺に広がっています。人骨が埋葬された支石墓が1872(明治5)に発見され、その後の調査で、弥生時代前期の墳墓が数多く発見されました。2千年前の神島神社一帯は、海岸線に面した砂丘であったことがわかっており、この遺跡は、海で生活をしていた人々が墓所とする区域だったと考えられています。

【見学のお知らせ】

- 神島神社境内に遺跡を移設復元しており、常時見学できます。
 - 宇久島資料館に出土品を展示しています。
- 見学可能時間：9時～17時
 ※平日は、宇久地区公民館へ申込が必要
 TEL 0959-57-2607
 休館日：年末年始(12/29～1/3)



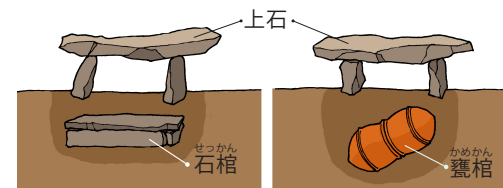
◆問合せ先 佐世保市教育委員会 社会教育課 TEL(0956)24-1111

宇久松原遺跡の発掘調査は、1968年(昭和43)に長崎大学と別府大学によって初めて行われました。そしてこれまでに4回の発掘調査が行われ、支石墓4基、石棺墓9基、甕棺墓30基、石蓋土坑墓2基、土坑墓3基が発見されています。

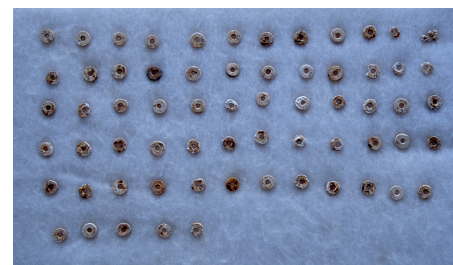
支石墓とは、朝鮮半島から伝わった形式の墓で、日本では西北九州の海岸沿いには見られません。埋葬された甕棺墓や石棺墓の区域を囲うように基礎となる石を置き、その上に1～2mほどの大きな上石を置くという特徴があります。その一方で、この遺跡の支石墓は、石棺の造り方が五島列島独特のもので、非常に興味深い特徴があります。



宇久松原遺跡発掘の様子



支石墓の図解



貝製白玉(紐を通して首飾りにします)



副葬品の小壺

また、墓の中からは人骨のほかに貝輪や垂飾品、貝製白玉、猪牙製装飾品などの副葬品が出土しています。これら出土した多くの人骨や副葬品は、北部九州から伝わったと考えられるもので、当地との繋がりの強さを示しています。

これら発掘調査の成果から、この地域は朝鮮半島と北部九州をつなぐ「海の道」にあたり、両方の文化が交流し、個性豊かな歴史や文化がみられることがわかりました。

考古学上貴重な遺跡であることから、2013年(平成25)に長崎県指定文化財に指定されています。